

アンケート結果について

令和6年10月15日

目次

- 1 市民向け・保護者向けアンケートの結果について 3～14ページ
- 2 教員向けアンケートの結果について 15～28ページ

1 市民向け・保護者向けアンケートの結果について

◆回答期間

令和6年7月1日～10日（市政アンケート）

令和6年7月18日～9月1日（保護者向けアンケート）

◆回答数

687件（市政アンケート）

2,583件（保護者向けアンケート）

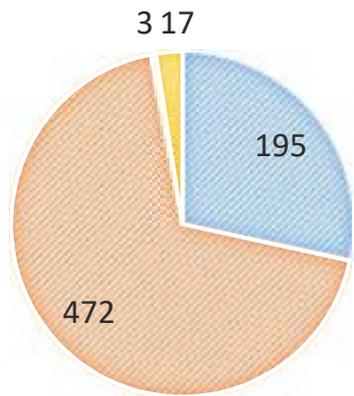
計 3,270件

◆質問内容

Q1 性別

市政アンケート

■ 男 ■ 女 ■ その他 ■ 回答しない

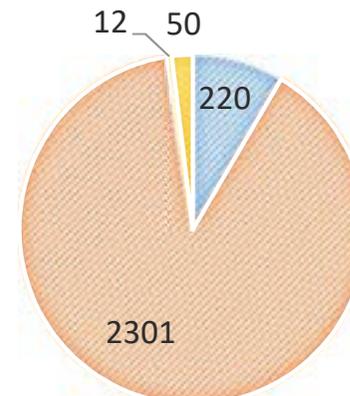


性別	回答数	回答割合
男	195	28.4%
女	472	68.7%
その他	3	0.4%
回答しない	17	2.5%
合計	687	

（1つのみ選択）

保護者向けアンケート

■ 男 ■ 女 ■ その他 ■ 回答しない



性別	回答数	回答割合
男	220	8.5%
女	2,301	89.1%
その他	12	0.5%
回答しない	50	1.9%
合計	2,583	

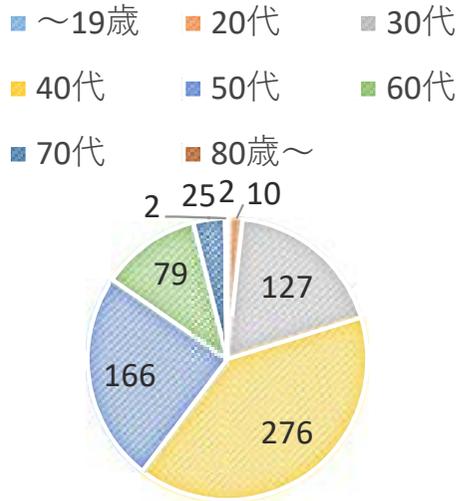
（1つのみ選択）

☆市政アンケートも保護者向けアンケートも女性の回答が多かったが、保護者向けは特に多い。

1 市民向け・保護者向けアンケートの結果について

Q2 回答年代

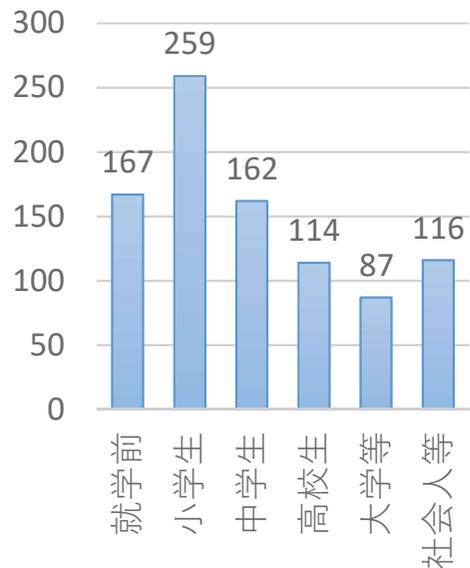
市政アンケート



性別	回答数	回答割合
～19歳	2	0.3%
20代	10	1.5%
30代	127	18.5%
40代	276	40.2%
50代	166	24.2%
60代	79	11.5%
70代	25	3.6%
80歳～	2	0.3%
合計	687	

(1つのみ選択)

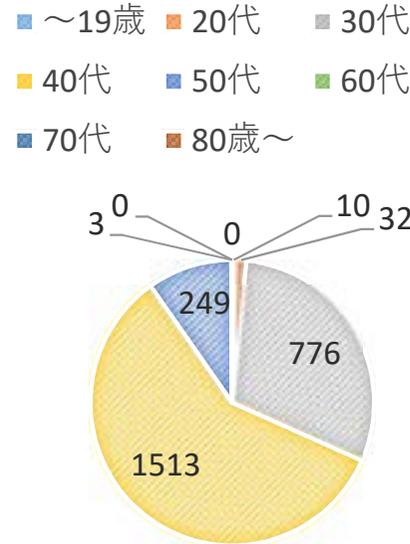
Q6 子どもの年代



年代	回答数	回答割合
就学前	167	18.5%
小学生	259	28.6%
中学生	162	17.9%
高校生	114	12.6%
大学等	87	9.6%
社会人等	116	12.8%
合計	905	

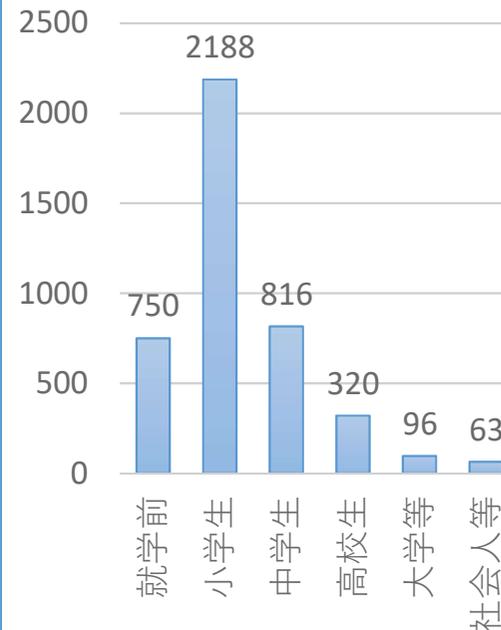
(複数選択)

保護者向けアンケート



性別	回答数	回答割合
～19歳	10	0.4%
20代	32	1.2%
30代	776	30.0%
40代	1,513	58.6%
50代	249	9.6%
60代	3	0.1%
70代	0	0%
80歳～	0	0%
合計	2,583	

(1つのみ選択)



年代	回答数	回答割合
就学前	750	17.7%
小学生	2,188	51.7%
中学生	816	19.3%
高校生	320	7.6%
大学等	96	2.3%
社会人等	63	1.5%
合計	4,233	

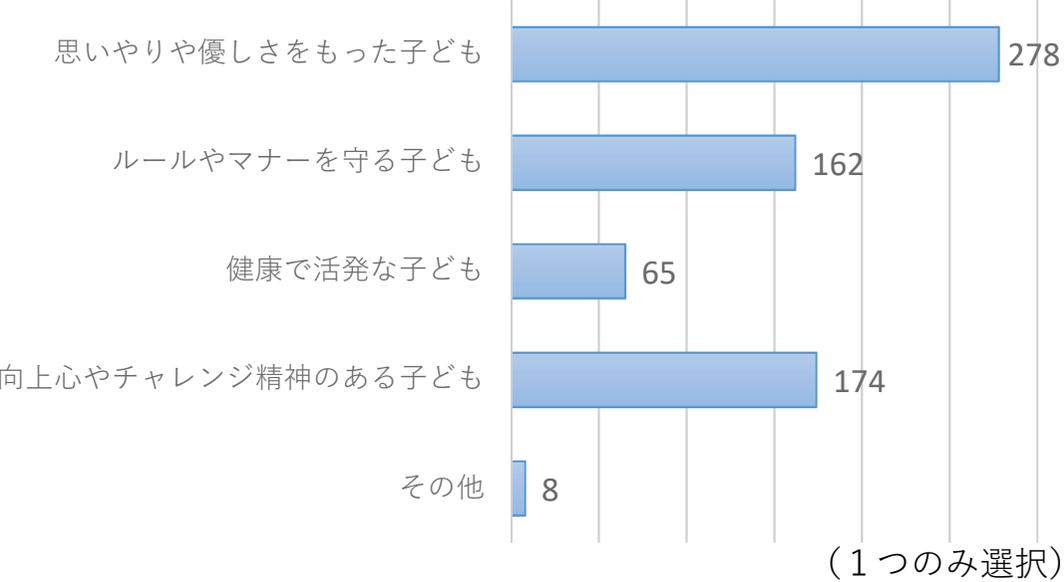
(複数選択)

☆市政アンケートは幅広い年代で回答をいただいたが、保護者向けアンケートは「小学生」の保護者が特に多い。

1 市民向け・保護者向けアンケートの結果について

Q8 尼崎の子どもたちにどのように育ってほしいですか

市政アンケート

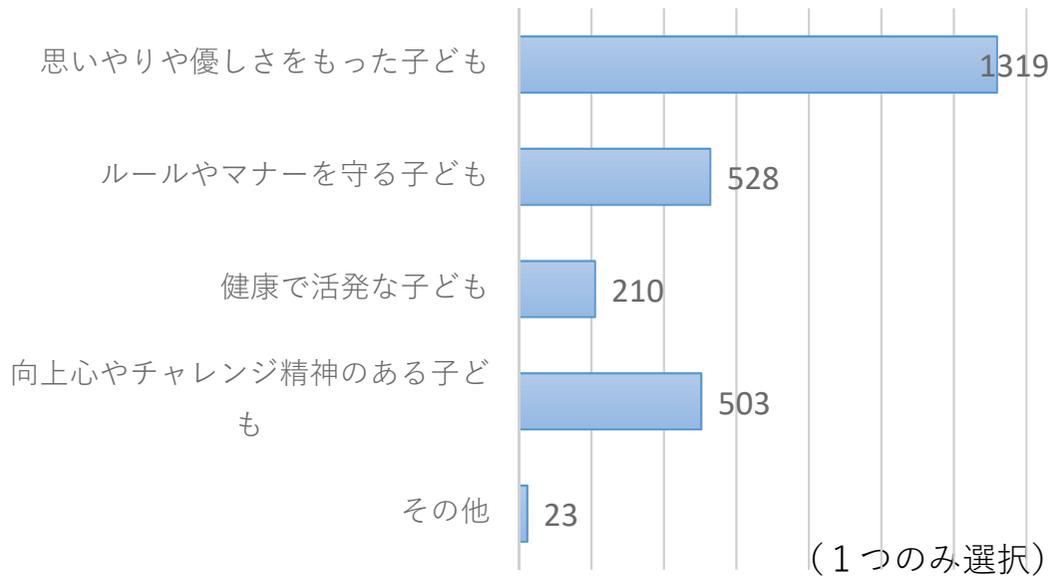


どのように育ってほしいか	回答数	回答割合
思いやりや優しさをもった子ども	278	40.5%
ルールやマナーを守る子ども	162	23.6%
健康で活発な子ども	65	9.5%
向上心やチャレンジ精神のある子ども	174	25.3%
その他	8	1.2%
合計	687	

その他の内容

- ・多文化共生ができる子ども
- ・地元を愛し、夢をあきらめない子ども
- ・科学リテラシーのある子ども など

保護者向けアンケート



どのように育ってほしいか	回答数	回答割合
思いやりや優しさをもった子ども	1,319	51.1%
ルールやマナーを守る子ども	528	20.4%
健康で活発な子ども	210	8.1%
向上心やチャレンジ精神のある子ども	503	19.5%
その他	23	0.9%
合計	2,583	

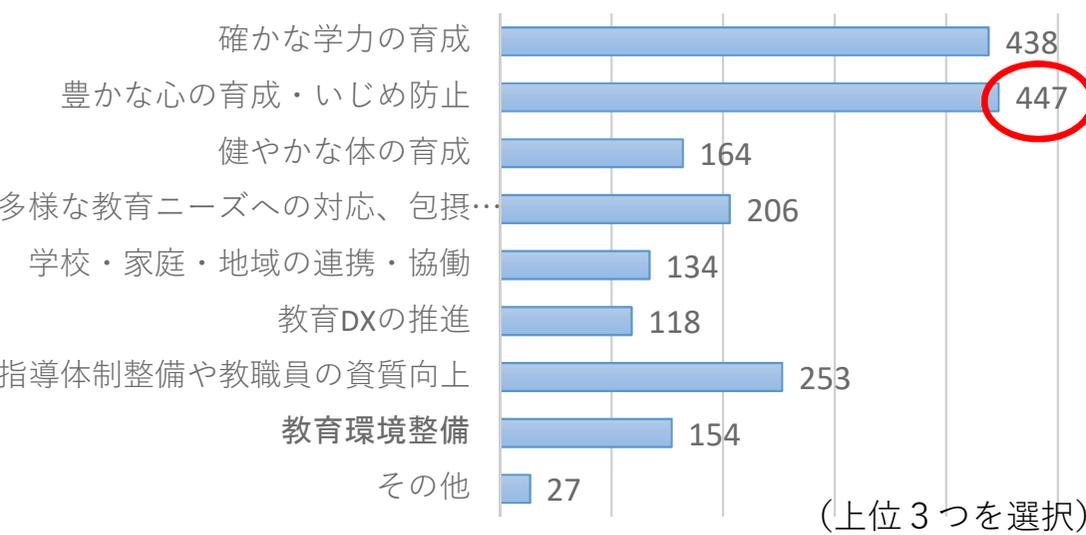
その他の内容

- ・心身ともに健康的な子ども
- ・学力がある子ども
- ・全部大切 など

1 市民向け・保護者向けアンケートの結果について

Q9 尼崎の教育で力をいれるポイント

市政アンケート

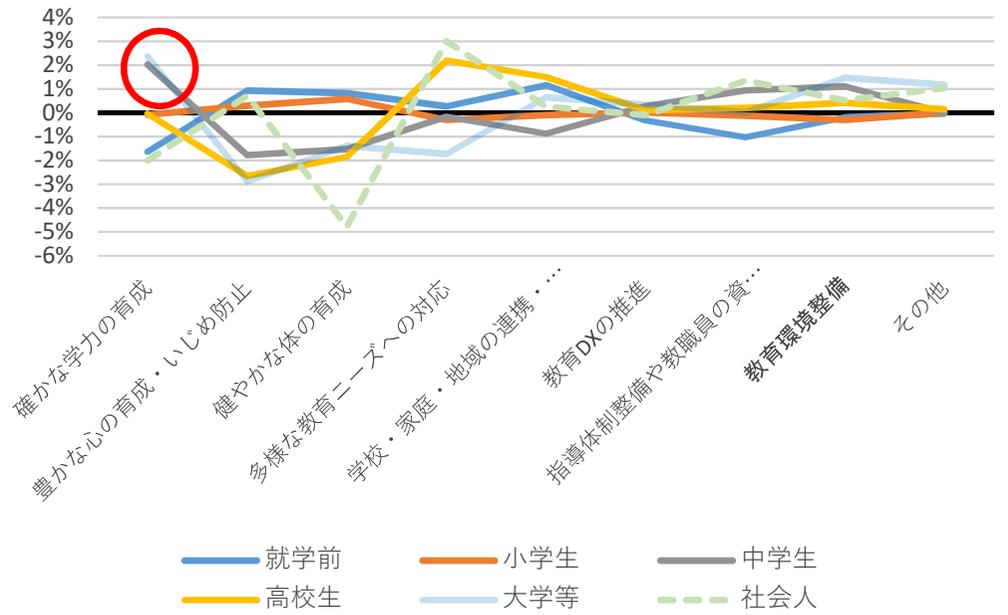
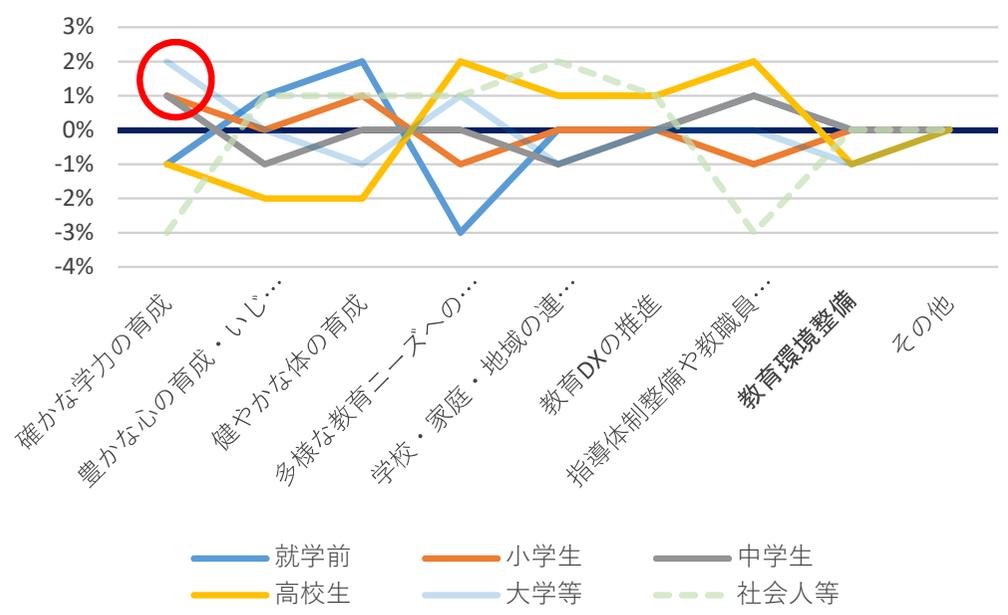


保護者向けアンケート



☆市政アンケート・保護者向けアンケートとも「豊かな心の育成・いじめ防止」の回答が一番多かった。

Q9 尼崎の教育で力をいれるポイント×Q7子どもの年代 (全世代を0%としたときの各年代での回答率の差)



1 市民向け・保護者向けアンケートの結果について

Q9 尼崎の教育で力をいれるポイント×Q7子どもの年代

市政アンケート

ポイント	就学前	小学生	中学生	高校生	大学等	社会人等
確かな学力の育成	103	174	111	71	61	64
豊かな心の育成・いじめ防止	116	168	100	67	59	77
健やかな体の育成	48	71	36	19	18	31
多様な教育ニーズへの対応、包摂性のある教育	40	74	51	40	31	38
学校・家庭・地域の連携・協働	33	51	27	24	15	30
教育DXの推進	29	43	26	21	16	22
指導体制整備や教職員の資質向上	66	88	62	48	32	31
教育環境整備	39	58	39	23	17	25
その他	5	11	5	4	3	2
合計	479	738	457	317	252	320
人数（再掲）	167	259	162	114	87	116

（上位3つを選択）

保護者向けアンケート

ポイント	就学前	小学生	中学生	高校生	大学等	社会人等
確かな学力の育成	436	1,365	553	196	64	37
豊かな心の育成・いじめ防止	570	1,627	559	211	61	47
健やかな体の育成	247	697	210	82	24	12
多様な教育ニーズへの対応、包摂性のある教育	195	548	217	102	24	24
学校・家庭・地域の連携・協働	159	387	127	71	18	12
教育DXの推進	110	345	135	50	15	9
指導体制整備や教職員の資質向上	198	625	251	92	28	19
教育環境整備	163	477	210	76	27	14
その他	18	54	20	9	5	3
合計	2,096	6,125	2,282	889	266	177
人数（再掲）	750	2,188	816	320	96	63

（上位3つを選択）

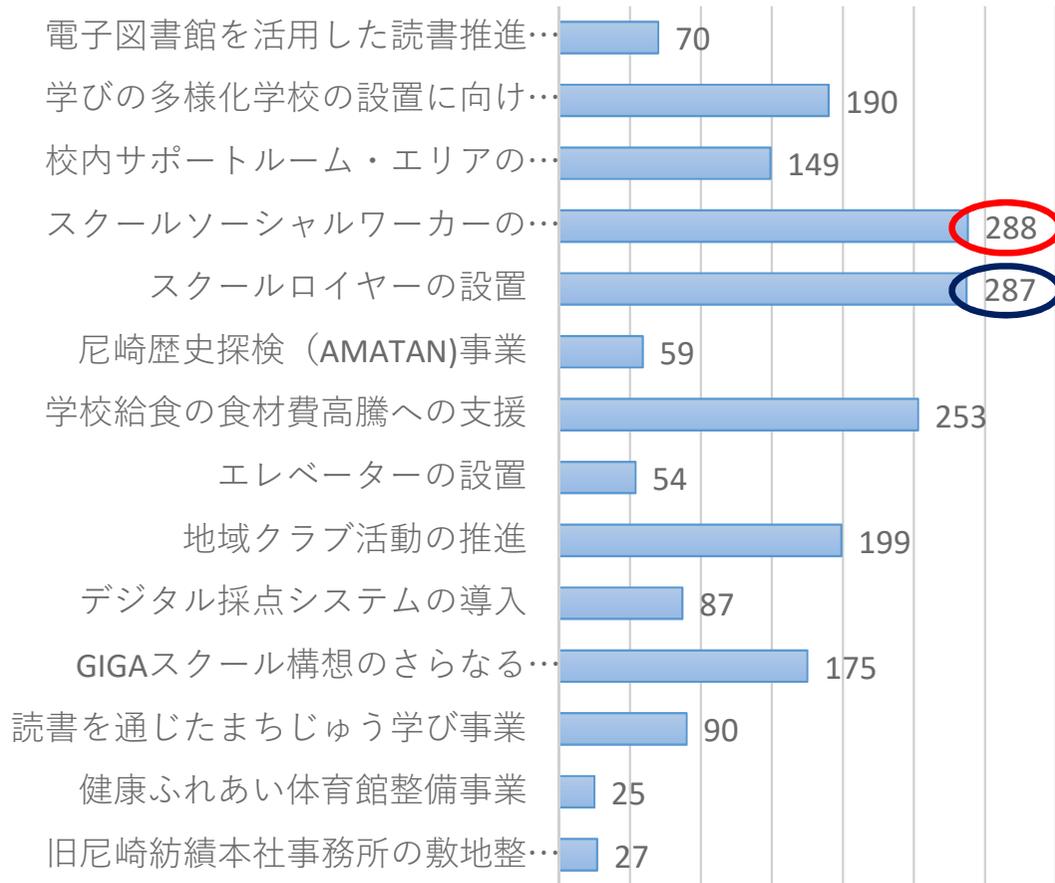
☆市政アンケート、保護者向けアンケートいずれにおいても子どもの年代が「中学生」～「大学等」の間において、「確かな学力の育成」の回答が占める割合が全体での平均値よりも高くなっている。特に、「中学生」の子を持つ世代は高くなっている。

⇒高校受験を控えて保護者のニーズが高まっていると推察されるため、中学生向けの学力向上支援策が必要ではないか。（計画に反映）

1 市民向け・保護者向けアンケートの結果について

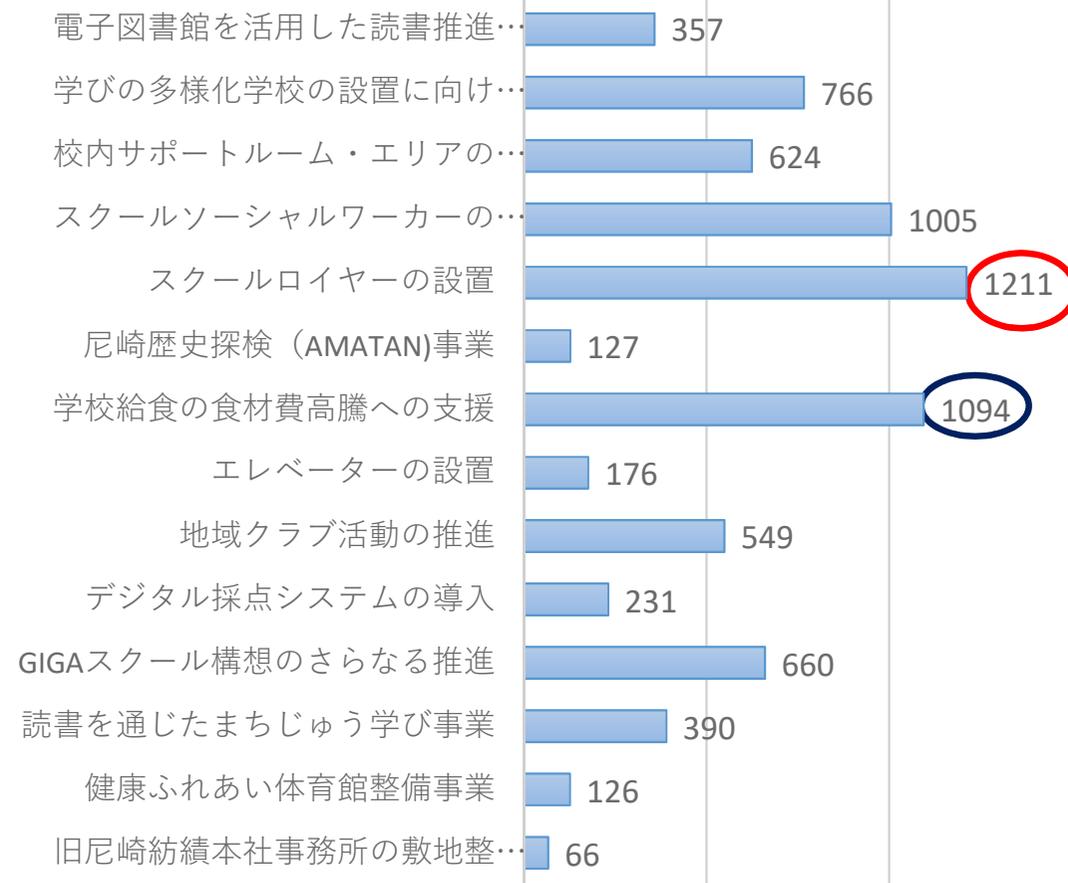
Q10 重要だと思うR6向け新規・拡充事業

市政アンケート



(上位3つを選択)

保護者向けアンケート



(上位3つを選択)

☆市政アンケートでは、「スクールソーシャルワーカーの体制強化」、「スクールロイヤーの設置」の順で回答が多かった。
☆保護者向けアンケートでは、「スクールロイヤーの設置」、「学校給食の食材費高騰への支援」の順で回答が多かった。

1 市民向け・保護者向けアンケートの結果について

Q10 重要だと思うR6向け新規・拡充事業×Q7子どもの年代

 (回答数が1番多い箇所)

 (回答数が2番目に多い箇所)

市政アンケート

施策	就学前	小学生	中学生	高校生	大学等	社会人等
電子図書館	21	31	18	10	10	10
学びの多様化学校	46	61	46	32	23	37
校内サポートルーム・エリア	31	61	34	28	20	24
スクールソーシャルワーカー	61	102	57	47	37	53
スクールロイヤー	78	102	58	45	39	47
AMATAN事業	8	16	11	9	7	19
学校給食の食材費高騰への支援	82	117	76	42	27	25
エレベーターの設置	15	18	10	7	7	11
地域クラブ活動	42	65	60	38	29	35
デジタル採点システム	22	40	27	12	9	13
GIGAスクール構想	41	77	44	27	16	27
読書を通じたまちじゅう学び	27	31	18	16	11	15
健康ふれあい体育館整備事業	6	14	1	4	4	5
旧尼崎紡績本社事務所	4	5	1	8	6	3
合計	484	740	461	325	245	324
人数(再掲)	167	259	162	114	87	116

(上位3つを選択)

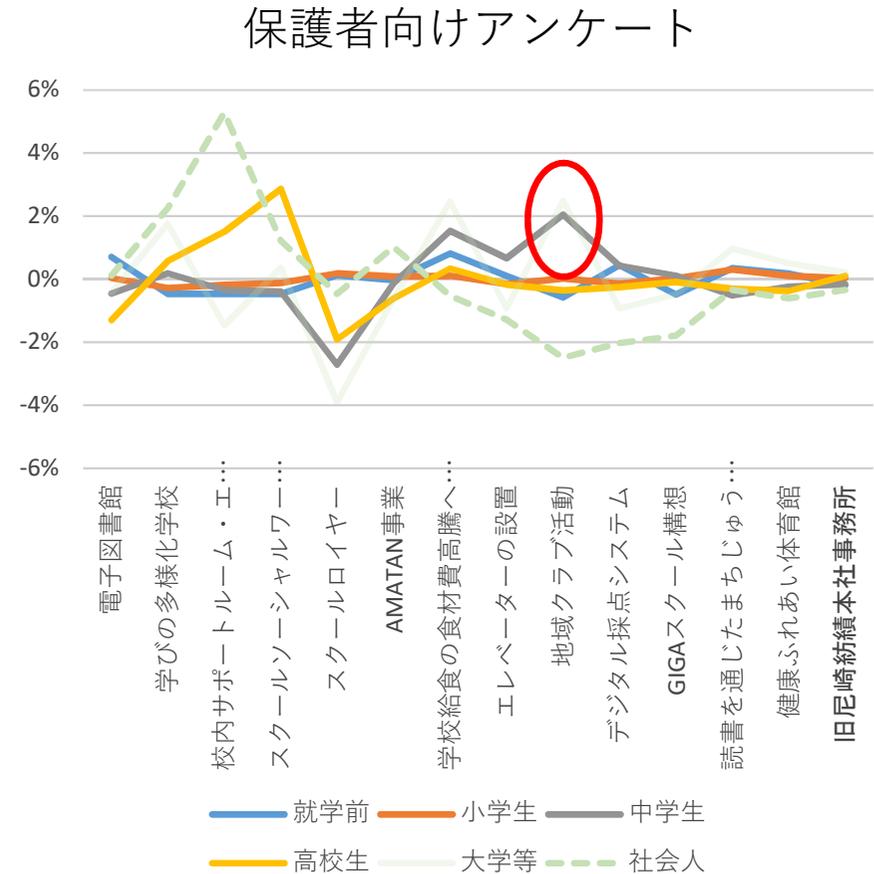
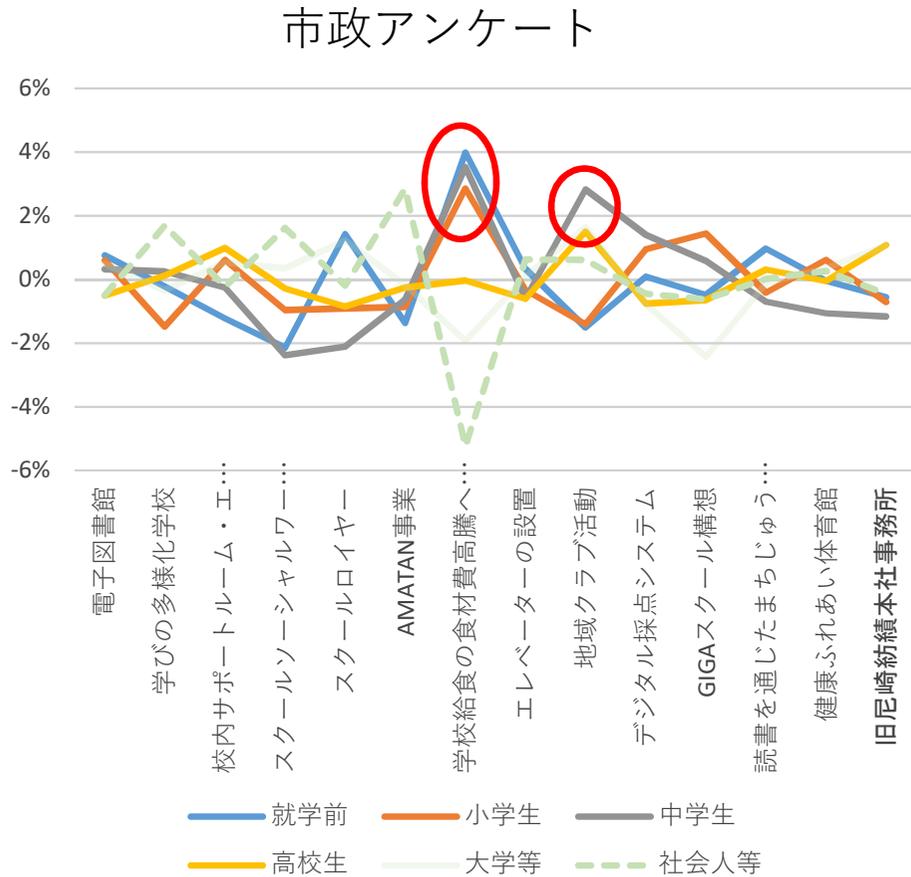
保護者向けアンケート

施策	就学前	小学生	中学生	高校生	大学等	社会人等
電子図書館	118	304	102	32	12	9
学びの多様化学校	211	631	246	99	33	23
校内サポートルーム・エリア	170	517	189	90	19	25
スクールソーシャルワーカー	280	843	308	149	38	27
スクールロイヤー	352	1,037	319	131	34	26
AMATAN事業	36	113	37	10	3	5
学校給食の食材費高騰への支援	333	933	381	137	47	26
エレベーターの設置	53	139	71	20	4	3
地域クラブ活動	146	466	221	64	27	9
デジタル採点システム	76	187	83	26	6	2
GIGAスクール構想	180	560	211	80	23	13
読書を通じたまちじゅう学び	120	349	111	45	17	9
健康ふれあい体育館整備事業	40	113	34	12	6	2
旧尼崎紡績本社事務所	15	58	17	9	3	1
合計	2,130	6,250	2,330	904	272	182
人数(再掲)	750	2,188	816	320	96	63

(上位3つを選択) 9

1 市民向け・保護者向けアンケートの結果について

Q10 重要だと思うR6向け新規・拡充事業×Q7子どもの年代（全世代を0%としたときの各年代での回答率の差）



☆市政アンケートにおいては、年代が低いほど「学校給食の食材費高騰への支援」のニーズが高い。また、「中学生」世代は「地域クラブ活動」のニーズも高い。

☆保護者向けアンケートにおいても、「中学生」世代は「学校給食の食材費高騰への支援」及び「地域クラブ活動」のニーズが高い。

⇒中学生世代は部活動の地域移行が直接影響するため、施策に関して特に関心が高い。教育委員会での決定事項を早期に示していく必要があるのではないか。（計画に反映）

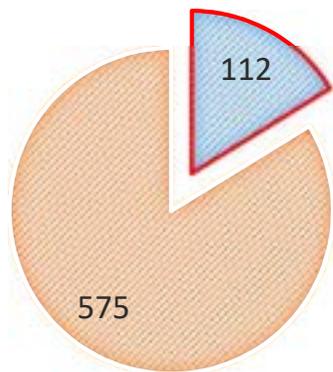
1 市民向け・保護者向けアンケートの結果について

Q11 教育委員会ではさまざまな情報発信を行っておりますがご存じですか

Q11-2 その情報をどのように得ていますか

市政アンケート

■知っている ■知らない

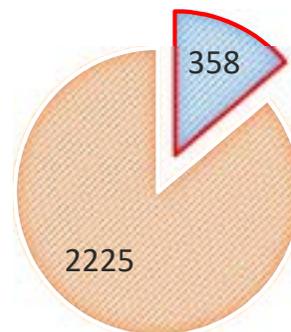


手段	回答数	回答割合
学校のお便り	56	25%
市報	99	45%
HP	38	17%
SNS	17	8%
新聞、テレビ、ラジオ	10	5%
その他	1	0%
計	221	

(複数選択)

保護者向けアンケート

■知っている ■知らない



手段	回答数	回答割合
学校のお便り	272	41%
市報	258	39%
HP	74	11%
SNS	32	5%
新聞、テレビ、ラジオ	15	2%
その他	11	2%
計	662	

(複数選択)

☆市政アンケート、保護者向けアンケート両方とも、教育委員会からの情報を受けとっている方は約15%だった。
 ☆情報を受け取っている中で、市政アンケートでは「市報」、保護者向けアンケートでは「学校のお便り」の回答が多かった。

⇒今後の情報発信手法等について検討が必要ではないか。(計画に反映)

1 市民向け・保護者向けアンケートの結果について

Q12 生涯学習に取り組んでいますか

Q12-2 次に掲げる生涯学習に取り組んでいますか

市政アンケート

- 取り組んでいる
- 取り組んでいない

取組内容	回答数	回答割合
教養的なもの	131	22%
歴史・文化・芸術に関するもの	91	16%
スポーツに関するもの	84	14%
仕事の上で役に立つもの	128	22%
子育てや教育に関するもの	107	18%
情報通信に関するもの	36	6%
その他	10	2%
計	587	

(複数選択)

保護者向けアンケート

- 取り組んでいる
- 取り組んでいない

手段	回答数	回答割合
教養的なもの	420	21%
歴史・文化・芸術に関するもの	254	13%
スポーツに関するもの	240	12%
仕事の上で役に立つもの	425	22%
子育てや教育に関するもの	474	24%
情報通信に関するもの	128	7%
その他	16	1%
計	1,957	

(複数選択)

☆市政アンケート、保護者向けアンケート両方とも生涯学習に取り組まれているのは、約40%だった。

☆自由記述の意見として、子育てに忙しくする生涯学習を行う暇がないという意見もあった。

☆市政アンケートでは「教養的なもの」「仕事の上で役に立つもの」に取り組まれている方が多く、保護者向けアンケートでは「子育てや教育に関するもの」に取り組まれている方が多かった。

1 市民向け・保護者向けアンケートの結果について

Q13 尼崎市が生涯学習で力を入れるポイントは×Q2回答年代

市政アンケート

取組内容	回答数	内訳							
		～19	20	30	40	50	60	70	80～
教養的なもの	436	1	5	82	167	116	48	16	1
歴史・文化・芸術に関するもの	270	2	2	37	89	74	44	20	2
スポーツに関するもの	248	1	2	41	96	68	28	11	1
仕事の上で役に立つもの	262	1	4	66	121	47	20	2	1
子育てや教育に関するもの	388	1	7	82	174	79	36	8	1
情報通信に関するもの	204	0	2	28	76	59	32	7	0
その他	23	0	0	6	6	7	3	1	0
計	1,831	6	22	342	729	450	211	65	6

(上位3つを選択)

その他の内容

- ・人権教育
- ・金融、税金、資産形成に関するもの
- ・健康に関するもの など

保護者向けアンケート

取組内容	回答数	内訳							
		～19	20	30	40	50	60	70	80～
教養的なもの	1,755	4	24	523	1,033	169	2	0	0
歴史・文化・芸術に関するもの	872	3	4	236	537	90	2	0	0
スポーツに関するもの	836	3	5	249	489	89	1	0	0
仕事の上で役に立つもの	1,132	3	19	344	664	102	0	0	0
子育てや教育に関するもの	1,659	8	23	514	954	158	2	0	0
情報通信に関するもの	596	0	7	170	367	52	0	0	0
その他	63	0	1	24	33	5	0	0	0
計	6,850	21	82	2,036	4,044	660	7	0	0

(上位3つを選択)

その他の内容

- ・金融、資産形成に関するもの
- ・ダイバーシティに関するもの など

☆市政アンケート、保護者向けアンケート両方とも「教養的なもの」の回答が多かった。子育て世代である30～40歳代は「子育てや教育に関するもの」の回答割合も高い。

2 教員向けアンケートの結果について

◆回答期間

令和6年8月2日～9月10日

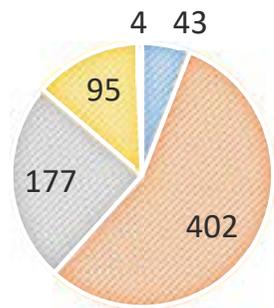
◆回答数

721件

◆質問内容

Q1 校園種

- 幼稚園
- 小学校
- 中学校
- 高等学校
- 特別支援学校

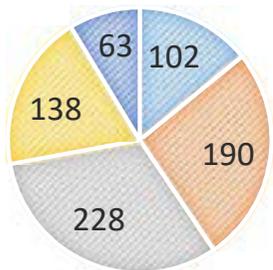


校園種	回答数	回答割合
幼稚園	43	6.0%
小学校	402	55.8%
中学校	177	24.5%
高等学校	95	13.2%
特別支援学校	4	0.6%

(1つのみ選択)

Q2 年代

- 20代
- 30代
- 40代
- 50代
- 60代以上

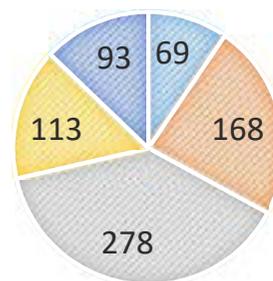


年代	回答数	回答割合
20代	102	14.1%
30代	190	26.4%
40代	228	31.6%
50代	138	19.1%
60代以上	63	8.7%

(1つのみ選択)

Q3 教職経験年数

- ～3年以下
- 4～10年
- 11～20年
- 21～30年
- 31年以上

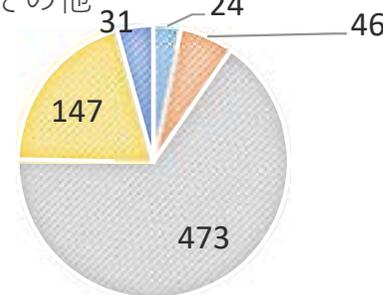


校園種	回答数	回答割合
～3年以下	69	9.6%
4～10年	168	23.3%
11～20年	278	38.6%
21～30年	113	15.7%
31年以上	93	12.9%

(1つのみ選択)

Q4 職名

- 校園長
- 教頭
- 教諭
- 臨時講師
- その他



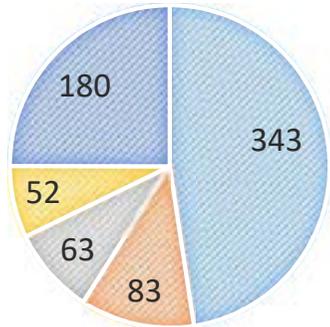
職名	回答数	回答割合
校園長	24	3.3%
教頭	46	6.4%
教諭	473	65.6%
臨時講師	147	20.4%
その他	31	4.3%

(1つのみ選択)

2 教員向けアンケートの結果について

Q5 担任の有無

- 学級担任
- 特別支援学級の担任
- 管理職
- 副担任
- していない



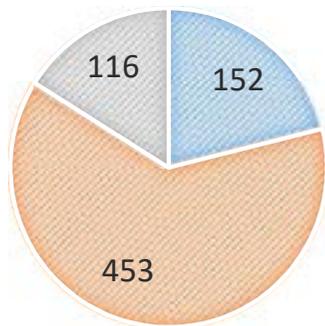
Q5 担任の有無 × Q3 教職経験年数

担任	合計	～3年	4～10年	11～20年	21～30年	31年以上
学級担任	343	34	100	151	37	21
特別支援学級	83	5	23	37	10	8
管理職	63	0	2	19	31	11
副担任	52	6	6	19	5	16
していない	180	24	37	52	30	37

(1つのみ選択)

Q6 教育振興基本計画を知っていますか

- 内容まで知っている
- 計画があるのは知っているが、内容は知らない
- 計画があることを知らない



Q6 教育振興基本計画を知っていますか × Q4 職名

	合計	校園長	教頭	教諭	臨時講師	その他
内容まで知っている	152	24	33	73	18	4
計画があるのは知っているが、内容は知らない	453	0	12	318	99	24
計画があることを知らない	116	0	1	82	30	3

(1つのみ選択)

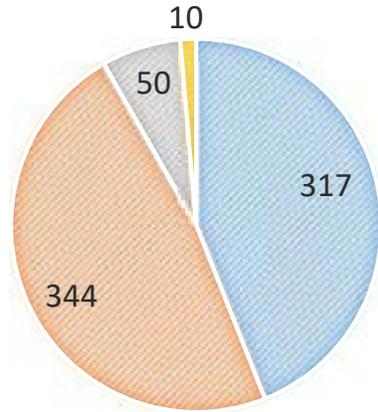
☆校園長及び教頭は計画の「内容まで知っている」が大半であるが、教諭、臨時講師、その他は「計画があるのは知っているが内容は知らない」人が過半数を占めている。

⇒教諭向けに内容を知ってもらう取組を行う必要があるのではないか。

2 教員向けアンケートの結果について

Q7 やりがいを感じていますか

- 感じている
- やや感じている
- あまり感じていない
- 感じていない



Q7 やりがいを感じていますか×Q1 校園種

□ (回答数が1番多い箇所)

やりがい	合計	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校
感じている	317	23	166	84	42	2
やや感じている	344	17	209	73	43	2
あまり感じていない	50	1	23	16	10	0
感じていない	10	2	4	4	0	0
合計	721	43	402	177	95	4

(1つのみ選択)

Q7 やりがいを感じていますか×Q3 教職経験年数

やりがい	合計	～3年	4～10年	11～20年	21～30年	31年以上
感じている	317	29	63	115	51	59
やや感じている	344	36	91	141	48	28
あまり感じていない	50	2	13	19	11	5
感じていない	10	2	1	3	3	1
合計	721	69	168	278	113	90

(1つのみ選択)

☆やりがいを「感じている」「やや感じている」の回答が約92%を占めている。
 ☆やりがいを「感じている」教員は、「幼稚園」「中学校」で多く、また、経験年数が長いほうが回答数が多い。

2 教員向けアンケートの結果について

(回答数が1番多い箇所)
(回答数が2番目に多い箇所)

Q7-2 どういう時にやりがいを感じますか



Q7-2 どういう時にやりがいを感じますか × Q3 教職経験年数

どういう時	合計	～3年	4～10年	11～20年	21～30年	31年以上
児童・生徒の成長が感じられたとき	652	65	152	252	94	89
自分の仕事が評価されたとき	296	23	66	124	45	38
自分の成長を実感したとき	192	29	51	65	32	15
クラスが1つにまとまったとき	232	21	68	102	22	19
保護者からお礼・感謝されたとき	277	30	73	99	40	35
同僚と協力して仕事をしているとき	256	14	36	106	51	49
児童・生徒が卒業後に会いに来たとき	106	6	15	46	20	19
その他	16	1	6	3	5	1
人数(再掲)	721	69	168	278	113	93

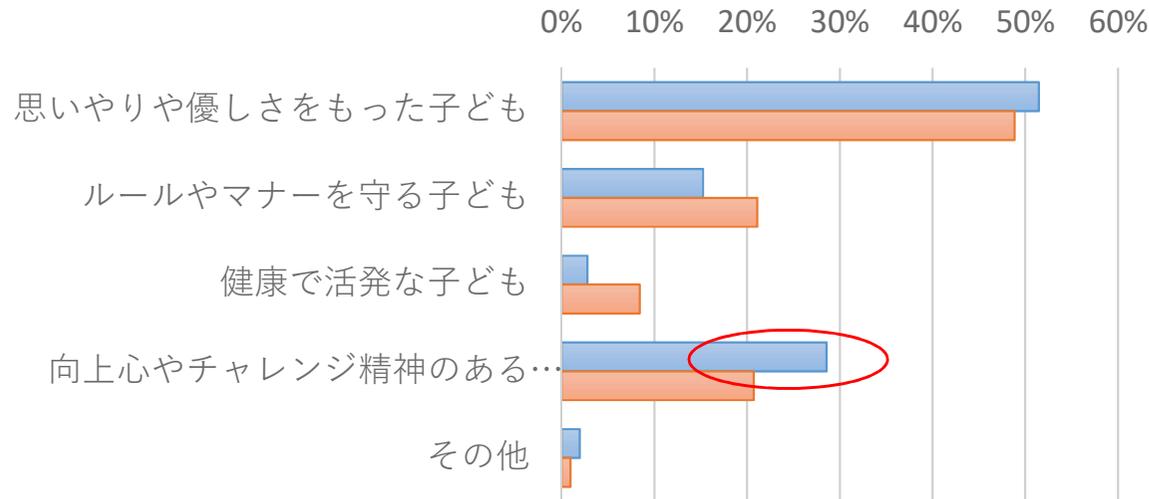
(上位3つを選択)

☆「児童・生徒の成長が感じられたとき」が約9割の回答を占めている。

☆経験年数別では、20年目までは、「自分の仕事が評価されたとき」「保護者からお礼・感謝されたとき」の回答が多く、21年目以降では「同僚と協力して仕事をしているとき」の回答が多い。

2 教員向けアンケートの結果について

Q8 尼崎の子どもたちにどのように育ってほしいですか



■ 教員向けアンケート ■ 市民・保護者向けアンケート

Q8 尼崎の子どもたちにどのように育ってほしいですか × Q1 校園種

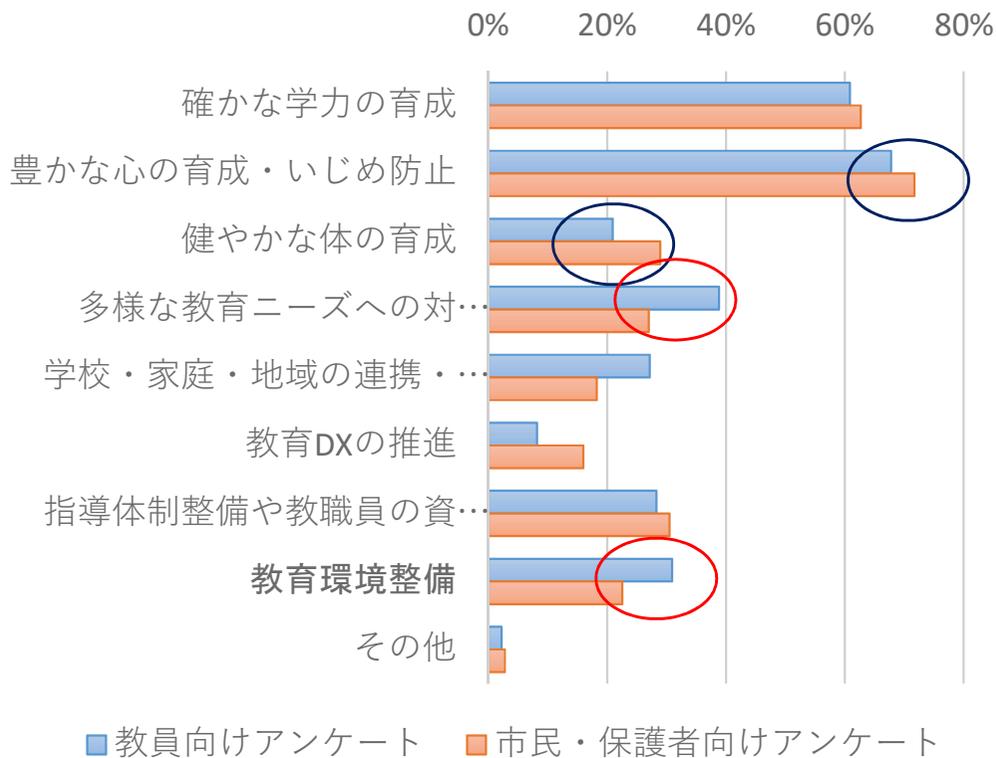
	合計	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校
思いやりや優しさを持った子ども	371	18	223	89	38	3
ルールやマナーを守る子ども	110	0	57	39	14	0
健康で活発な子ども	20	5	9	3	3	0
向上心やチャレンジ精神のある子ども	206	20	106	40	39	1
その他	14	0	7	6	1	0

(1つのみ選択)

☆教員向けアンケートでは、「向上心やチャレンジ精神のある子ども」の回答割合が保護者向けアンケートよりも高い。

2 教員向けアンケートの結果について

Q9 尼崎の教育で力をいれるポイント



 (比較して教員の回答割合が大きい箇所)
 (比較して市政の回答割合が大きい箇所)

ポイント	教員	割合	市政・保護者	割合
確かな学力の育成	439	60.9%	2,051	62.7%
豊かな心の育成・いじめ防止	489	67.8%	2,346	71.7%
健やかな体の育成	151	20.9%	946	28.9%
多様な教育ニーズへの対応、包摂性のある教育	280	38.8%	883	27.0%
学校・家庭・地域の連携・協働	196	27.2%	597	18.3%
教育DXの推進	59	8.2%	523	16.0%
指導体制整備や教職員の資質向上	204	28.3%	998	30.5%
教育環境整備	223	30.9%	737	22.5%
その他	16	2.2%	91	2.8%
合計	2,057		9,172	
人数(再掲)	721		3,270	

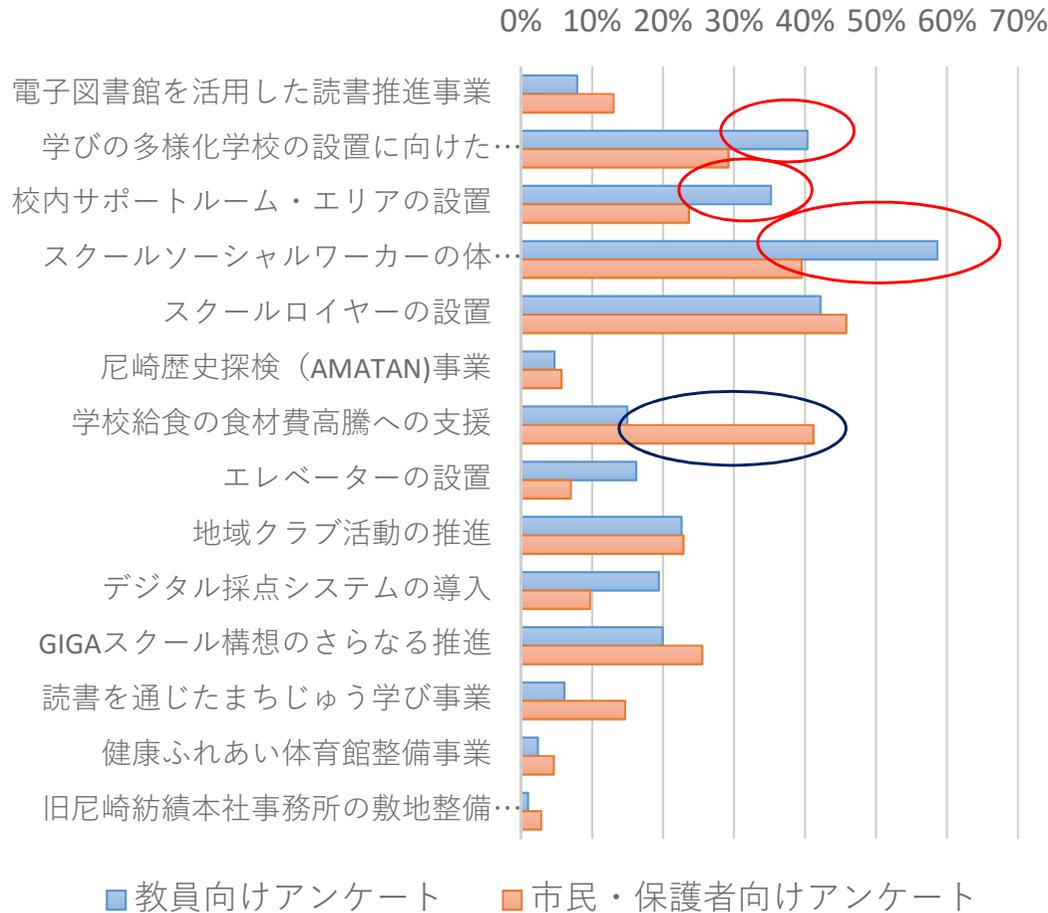
☆教員向けアンケートでは、市政・保護者向けアンケートと比較して「多様な教育ニーズへの対応、包摂性のある教育」「教育環境整備」「学校・家庭・地域の連携・協働」の回答割合が大きい。

☆市政・保護者向けアンケートでは、教員向けアンケートと比較して、「豊かな心の育成・いじめ防止」「健やかな体の育成」の回答割合が大きい。

2 教員向けアンケートの結果について

Q10 重要だと思うR6向け新規・拡充事業

 (教員の回答割合が大きい箇所)
 (市政の回答割合が大きい箇所)



R6向け新規拡充事業	教員	割合	市政・保護者	割合
電子図書館を活用した読書推進事業	57	7.9%	427	13.1%
学びの多様化学校の設置に向けた検討	291	40.4%	956	29.2%
校内サポートルーム・エリアの設置	254	35.2%	773	23.6%
スクールソーシャルワーカーの体制強化	423	58.7%	1,293	39.5%
スクールロイヤーの設置	304	42.2%	1,498	45.8%
尼崎歴史探検 (AMATAN)事業	34	4.7%	186	5.7%
学校給食の食材費高騰への支援	108	15.0%	1,347	41.2%
エレベーターの設置	117	16.2%	230	7.0%
地域クラブ活動の推進	163	22.6%	748	22.9%
デジタル採点システムの導入	140	19.4%	318	9.7%
GIGAスクール構想のさらなる推進	144	20.0%	835	25.5%
読書を通じたまちじゅう学び事業	44	6.1%	480	14.7%
健康ふれあい体育館整備事業	17	2.4%	151	4.6%
旧尼崎紡績本社事務所の敷地整備の実施	7	1.0%	93	2.8%
人数 (再掲)	721		3,270	

(上位3つを選択)

☆教員向けアンケートでは、「スクールソーシャルワーカーの体制強化」の割合が1番高く、「スクールロイヤーの設置」「学びの多様化学校の設置に向けた検討」「校内サポートルーム・エリアの設置」の順番で回答が多かった。

⇒現場の教員は不登校支援対策の施策を重要視されている。今後も「学びの多様化学校の設置」をはじめとし、不登校対策に力をいれていく必要があるのではないか。(計画に反映)

2 教員向けアンケートの結果について

Q11 あなたの超勤時間は×Q4 職名



超勤時間	合計	校園長	教頭	教諭	臨時講師	その他
10時間未満	120	1	1	61	38	19
10~15時間未満	58	2	0	36	19	1
15~20時間未満	53	3	4	32	13	1
20~25時間未満	80	4	6	50	16	4
25~30時間未満	76	5	2	52	14	3
30~35時間未満	58	3	3	38	14	0
35~40時間未満	78	1	4	62	11	0
40~45時間未満	66	2	11	45	8	0
45~50時間未満	32	1	2	27	2	0
50~55時間未満	25	1	5	13	5	1
55~60時間未満	16	1	1	13	1	0
60時間以上	59	0	7	44	6	2
合計	721	24	46	473	147	31

(1つのみ選択)

☆超勤時間について、「教頭」は特に多いとともに、「教諭」は2極化している傾向がある。
⇒以前から指摘されている通り、「教頭」の負担軽減が必要ではないか。(計画に反映)

2 教員向けアンケートの結果について

Q11 あなたの超勤時間は×Q7やりがいを感じていますか

 (回答割合が全体の平均より大きい箇所)
 (回答割合が全体の平均より小さい箇所)

超勤時間	合計	割合	感じている	割合	やや感じている	割合	あまり感じていない	割合	感じていない	割合
10時間未満	120	16.6%	50	15.8%	65	18.9%	3	6.0%	2	20.0%
10～15時間未満	58	8.0%	27	8.5%	27	7.8%	4	8.0%	0	8.0%
15～20時間未満	53	7.4%	26	8.2%	23	6.7%	3	6.0%	1	10.0%
20～25時間未満	80	11.1%	38	12.0%	35	10.2%	7	14.0%	0	0.0%
25～30時間未満	76	10.5%	31	9.8%	38	11.0%	6	12.0%	1	10.0%
30～35時間未満	58	8.0%	29	9.1%	26	7.6%	3	6.0%	0	0.0%
35～40時間未満	78	10.8%	35	11.0%	36	10.5%	6	12.0%	1	10.0%
40～45時間未満	66	9.2%	23	7.3%	34	9.9%	7	14.0%	2	20.0%
45～50時間未満	32	4.4%	12	3.8%	17	4.9%	2	4.0%	1	10.0%
50～55時間未満	25	3.5%	12	3.8%	10	2.9%	3	6.0%	0	0.0%
55～60時間未満	16	2.2%	9	2.8%	6	1.7%	0	0.0%	1	10.0%
60時間以上	59	8.2%	25	7.9%	27	7.8%	6	12.0%	1	10.0%
合計	721		317		344		50		10	

(1つのみ選択)

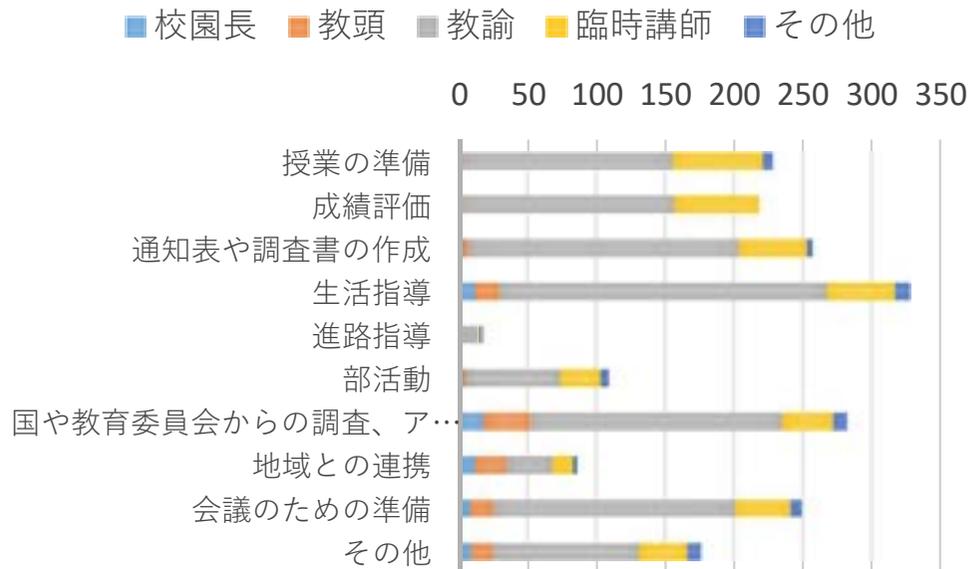
☆超勤時間とやりがいの関係について、回答数の多かった「感じている」「やや感じている」で比較すると、超勤時間が60時間以上の区分では「感じている」「やや感じている」と回答した割合は平均の割合よりも低い。

10時間以上25時間未満の区分では、やりがいを「感じている」と回答した割合は平均の割合よりも高い。

⇒「感じている」と「やや感じている」でそこまで大きく超勤時間に差はないが、それでも超勤時間が短いほうがやりがいを「感じている」割合が大きいことから、引き続き教職員の働き方改革を進めていく必要があるのではないか。

2 教員向けアンケートの結果について

Q12 どういう業務に負担を感じていますか×Q4 職名



その他の内容

- ・保護者対応
- ・校務分掌
- ・会計などのお金の管理 など

□ (合計の割合と各職名での割合の差が大きい箇所)

内容	合計	校園長	教頭	教諭	臨時講師	その他
授業の準備	228	1	1	154	65	7
成績評価	218	0	1	156	61	0
通知表や調査書の作成	257	1	5	198	49	4
生活指導	328	12	17	239	49	11
進路指導	17	0	1	13	1	2
部活動	109	2	3	69	29	6
国や教育委員会からの調査、アンケート	282	18	34	183	37	10
地域との連携	86	12	23	33	15	3
会議のための準備	249	8	17	176	40	8
その他	176	9	16	106	35	10
合計	1,950	63	118	1,327	381	61
人数(再掲)	721	24	46	473	147	31

(上位3つを選択)

☆「校園長」「教頭」は、「国や教育委員会からの調査、アンケート」「地域との連携」に負担を感じている。

☆「教諭」は、「生活指導」「通知表や調査書の作成」に負担を感じている。

☆「臨時講師」は、「授業の準備」「成績評価」に負担を感じている。

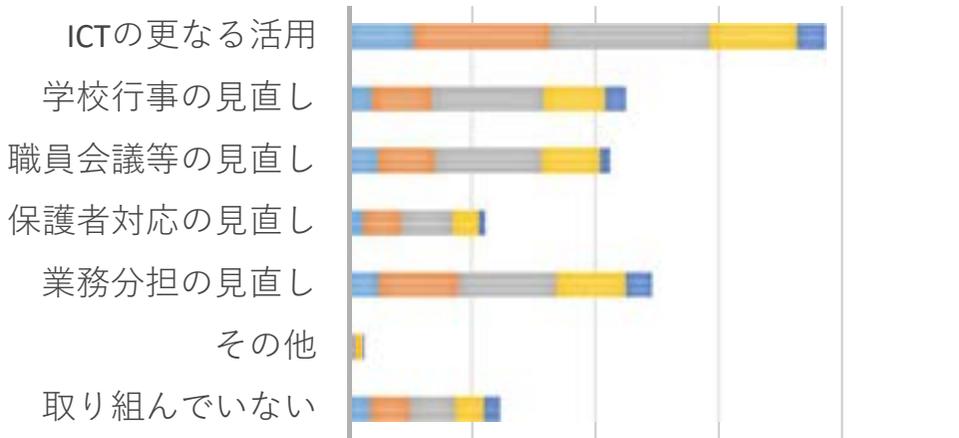
⇒「教頭」の負担軽減に向けては、例えばアンケートのデジタル化を図るなど一層のデジタル化の推進を図っていく必要があるのではないか。

2 教員向けアンケートの結果について

Q13 働き方改革に取り組んでいますか × Q2 年代

■ 20代 ■ 30代 ■ 40代 ■ 50代 ■ 60代以上

0 100 200 300 400 500



その他の内容

- ・ 今までの固定概念を変える
- ・ 帰れるときは帰る など

□ (合計の割合と各年代での割合の差がプラスの箇所)

□ (合計の割合と各年代での割合の差がマイナスの箇所)

取組内容	合計	20代	30代	40代	50代	60代以上
ICTの更なる活用	386	53	110	130	70	23
学校行事の見直し	225	19	49	91	49	17
職員会議等の見直し	212	24	46	87	47	8
保護者対応の見直し	111	13	30	42	21	5
業務分担の見直し	246	25	64	80	56	21
その他	13	1	3	3	5	1
取り組んでいない	123	18	32	37	23	13
合計	1,316	153	334	470	271	88
人数 (再掲)	721	102	190	228	138	63

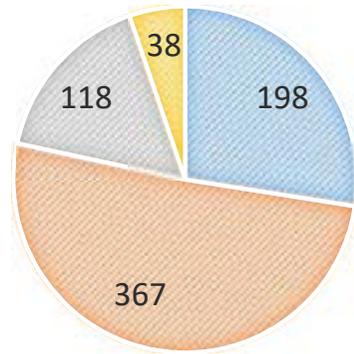
☆働き方改革に取り組んでいる内容としては、「ICTの更なる活用」「業務分担の見直し」「学校行事の見直し」「職員会議等の見直し」の順番で回答が多かった。

☆年代別での取組内容は「20代」「30代」で「ICTの更なる活用」の割合が高く、「40代以上」では低い。「学校行事の見直し」では「40代」「60代以上」で取り組まれている割合が高く、「20代」「30代」が低い。「業務分担の見直し」では「50代」「60代以上」で取り組まれている割合が高く、「40代」で低い。

2 教員向けアンケートの結果について

Q14 あなたの学校園は働き方改革に前向きですか

- 前向きに取り組んでいる
- やや前向きに取り組んでいる
- あまり前向きに取り組んでいない
- 前向きに取り組んでいない



Q14 あなたの学校園は働き方改革に前向きですか × Q4 職名

□ (合計の割合と各年代での割合の差がプラスの箇所)

□ (合計の割合と各年代での割合の差がマイナスの箇所)

	合計	校園長	教頭	教諭	臨時講師	その他
前向きに取り組んでいる	198	17	15	112	44	10
やや前向きに取り組んでいる	367	6	28	241	76	16
あまり前向きに取り組んでいない	118	1	2	90	21	4
前向きに取り組んでいない	38	0	1	30	6	1
合計	721	24	46	473	147	31

(1つのみ選択)

☆働き方改革に「前向きに取り組んでいる」「やや前向きに取り組んでいる」の回答が約78%だった。

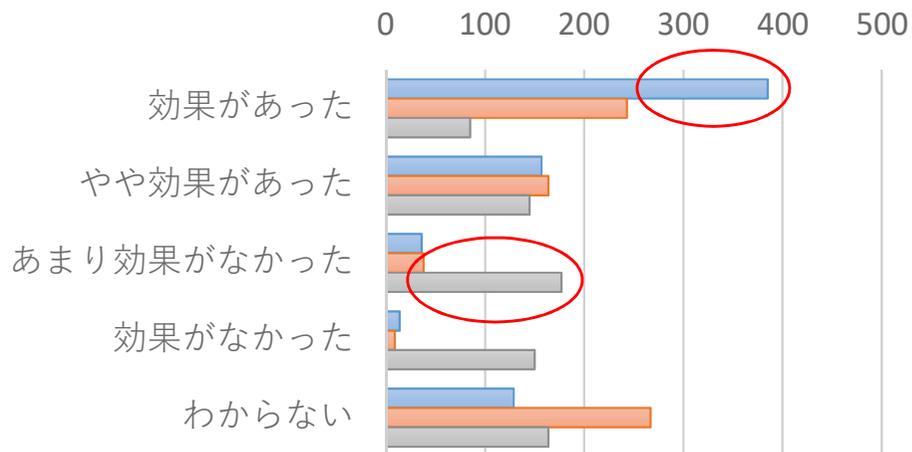
☆職名別にみると「校園長」「教頭」が「前向きに取り組んでいる」「やや前向きに取り組んでいる」の回答が約94%を超えている一方、「教諭」は約74%と全体よりも低かった。

2 教員向けアンケートの結果について

Q15-1 スクールサポートスタッフの配置

Q15-2 自動音声応答システムサービスの導入

Q15-3 出退勤システムの導入



■ スクールサポートスタッフの配置

■ 自動音声応答システムサービスの導入

■ 出退勤システムの導入

	スクールサポートスタッフの配置	自動音声応答システムサービスの導入	出退勤システムの導入
効果があった	385	243	85
やや効果があった	157	164	145
あまり効果がなかった	36	38	177
効果がなかった	14	9	150
わからない	129	267	164
合計	721	721	721

(1つのみ選択)

(※) 上記の3つは、幼稚園・高等学校には導入していないため、「わからない」の回答が多い。

☆「スクールサポートスタッフ」については、「効果があった」との回答が多かった。逆に「出退勤システム」については、「効果がなかった」との回答が多かった。「自動音声応答システム」は「効果があった」との回答が比較的多かった。

⇒「出退勤システム」については、勤務時間の把握を目的に導入したが、今後のサービス管理との連携については検討課題がある。

☆「自動音声応答システムサービス」について、非通知着信をつながらないようにすると、クレームが減ったとの意見があった。

⇒他校にも展開できるのではないか。

2 教員向けアンケートの結果について

Q16 自由記述（ワードクラウド）



☆難しいとはわかっているが「人員を増加してほしい」というご意見とともに、教員が公金を扱うのは責任が重い
ため、「経理担当者をおいてほしい」というご意見が多かった。

☆「幼稚園」「高等学校」も市立であるので、「スクールサポートスタッフ」や「自動音声システム」を導入して
ほしいとのご意見が多かった。また、幼稚園に「Wi-Fi」を導入してほしいとのご意見があった。